

口之津の繁栄と歴史をたどる新資料館

令和2年5月オープンした口之津歴史民俗資料館では「口之津の繁栄を知ることができる中世・近現代」をテーマに、壁面グラフィック、ジオラマ、ガイダンス映像など駆使しダイナミックに表現しています。展示施設は大きく2つにわかれ①中世の大航海時代の南蛮船来航の様子や天正遣欧少年使節に関する展示と②三池炭鉱の石炭積み出し港として栄えた口之津地区の様子、外洋航路の船員を輩出したことを物語る多くの外国の民芸品などが展示されています。



南蛮船来航の地（長崎県指定文化財）

口之津港は永禄5年（1562年）、南蛮貿易港として開かれ、同時期からこの地はキリスト教布教の本拠地として栄えた。

特に天正7年（1579年）には天正遣欧少年使節を発案したヴァリニャーノ巡察師が訪れ日本人司祭のための教育機関セミナリヨやコレジヨの充実に寄与した。

南島原市では、ヴァリニャーノ巡察師の出身地であるイタリアのキエーティ市と友好都市の協定を結び、毎年度4名の中学生が使節として訪れる等の交流をしています。



世界文化遺産長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の一つ「原城跡」
禁教初期に島原と天草の潜伏キリシタンが蜂起した「島原・天草一揆」の主戦場となった城跡で深い話を聞くことができます。



○予約ガイド 【10人まで料金2,000円】（他にもコースがあります、詳細は予約時にご確認ください）

世界遺産コース 原城跡とガイダンス施設「有馬キリシタン遺産記念館」を観光ガイドがまとめて案内。

原城跡コース 島原・天草一揆（島原の乱）終焉の地。一揆軍総大将天草四郎が見た景色と想いとは。

○土日祝日限定ワンコインガイド **原城跡**

【お客様1人あたり500円/団体上限2,000円】観光ガイドが分かりやすくご案内します。

【問合わせ】

有馬の郷事務局 / （一社）南島原ひまわり観光協会内 電話：0957-65-6333

マリンフェスタinくちのつ

昭和35年から続いている地元のお祭りで例年7月末の日曜日に口之津港緑地公園で開催されています。

ステージでは様々な団体が出演し郷土芸能のお披露目、幼稚園児等の演技披露などを行います。

島原半島ペーロン大会、口之津海上技術学校の練習船口洋丸を使った体験航海、イルカウォッチングなど体験型のアクティビティも実施されています。

夜に港の中心で打ち上げられる花火は360度全域が観覧席であり穏やかな水面を色鮮やかに彩ります。



ペーロン大会



九州オルレ南島原コース

オルレは韓国済州島から始まったもので「通りから家に通じる狭い路地」という意味です。九州オルレ南島原コースでは、「潮風を感じながら、南蛮貿易で栄えた港町を歩く」をテーマとしており、トレッキングに適した道を五感を感じながら地域の魅力を再発見してもらいたいと思います。

年3回（毎年11月23日実施、他未定）



これから始まるイベントなど

令和2年3月に供用開始した口之津港ターミナルビルでは、物産広場において「くちのつポートバザール」（物産市場）の開催が予定されています。

また、令和2年年度中においてビル内にイルカウォッチング事務所の営業開始が予定されています。



自然豊かな南島原市は、おいしい素材もふんだんに採れる食の宝庫！
農産物や水産品、そして手延そうめんなどたくさんの「おいしい」に恵まれています。

島原手延そうめん



南島原市は生産量全国第2位を誇る「島原手延べそうめん」の産地です。特徴は手延べ独特のコシの強さとツルツルシコシコののど越しの良い触感です。

早崎瀬戸あらかぶ



島原半島と天草の海峡は早崎瀬戸と呼ばれ、全国的にも潮流が速いことで有名です。ここで獲れる「カサゴ」は長崎県のブランド魚「早崎瀬戸あらかぶ」として認定されています。
時期：12月上旬～5月上旬

ひよっつる



地元で養殖されている、有明海の恵みをたっぷり吸収して育ったミネラル豊富な「わかめ」を細麺状に加工したヘルシー麺です。

ばれいしょ



南島原市では1,260ヘクタールで作付けされている代表的な作物です。火の通りが遅く、調理時に荷崩れしにくく煮物に向いています。
時期：5月